

目次

<かいせつ>

□ 熊本県長期計画——総論 ..... 8

座談会

□ 県計画をどう進めるか

★ 県計画と広域市町村計画の問題点 ..... 26

□ ことしの県の台所は

★ 昭和45年度当初予算のあらまし ..... 35

■ ここに人あり

英語のオバさん・富永サカエさん ..... 25

<随想>

土村 伸・太田 峯子・田尻 牧夫

★ 話のくずかご

観光地とPRと写真・小松 哲也 ..... 16

★ グラビアページ ★

- ・特集 活力にみちた郷土づくりへ
- ・新産業風土記 ..... お化けの金太
- ・若者のいる風景・県政ハイライトほか

★ センターカラー ..... 阿蘇・米塚

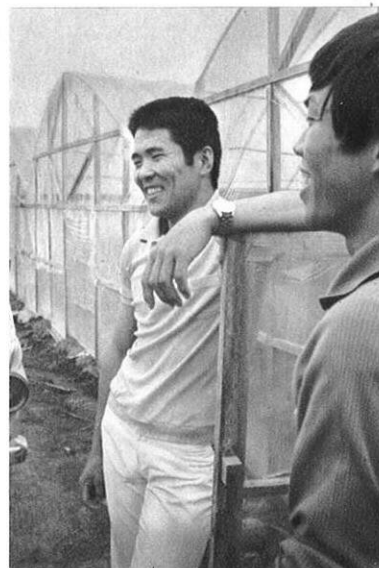
★ 表紙 ..... 初夏の菊池川畔

名簿更新のお知らせ

「広報くまもと」の配布名簿を例年どおりことしも更新(7月号からの予定)いたします。市町村関係の役員改選や地番変更などにもなうものです。もし配布もれや住所変更などありましたら編集部までご連絡ください。(編集部)



▶ひと仕事終って、ほっと一息。レジャーの相談などで賑わう



▼規格、品質など厳密に選別して箱づめ。思わず心がはずむ。



▲メンバーが集まると、討論に花が咲き、つい時間のたつのを忘れる。



◀スイカ畑から帰ると、赤牛が首を長くしてエサを待っている。

青年とスイカと仲間

鹿本郡植木町・月山博幸君

スイカの玉が、月山君の両手にズシリと重く収穫の感触を伝える。一年間の努力の重みである。

植木町は、スイカが表作で、米は裏作というほど、昔からスイカ栽培の盛んなところ。彼も、三十二年熊本農高を卒業すると、スイカづくりに取り組んだ。一家の経営は責任分担制。両親が水田とミカン山を中心に受け持ち、彼が、スイカ百二十坪の責任者だ。

「まだまだ栽培面積を広げたい」と勝気らしい目を輝かせる彼は、早期出荷の量を確保し、品質の改善向上をはかる一つの方法として、昨年は後継者資金で約千二百平方坪の連棟ハウスを建てるなど、意欲的な姿勢をみせている。

スイカを中心にした若い仲間との交流も盛ん。共に農業に志す者で、お互いに学びあおう」と高校の同期生八人で「一心会」というグループをつくり、毎週水曜日の夜に勉強会を開いているが、つい熱がはいつて、夜半にいたることもたびたびだという。

彼の年間の経営スケジュールはぎっしりとつまっている。五月中旬から七月までのスイカの収穫、その後の秋野菜、そして十二月から始まるスイカの育苗。もちろん、水田作やミカン栽培も、彼の若いエネルギーはフル回転だ。その上、町の青年団の産業部長、県農村青少年連絡協議会の監事も勤め、公私ともに多忙である。その暇をぬって、ボーリングをするのが楽しみと笑う顔に、二十一歳の年齢がのぞいていた。